

メコン川のダム建設とトンレサップ湖漁業

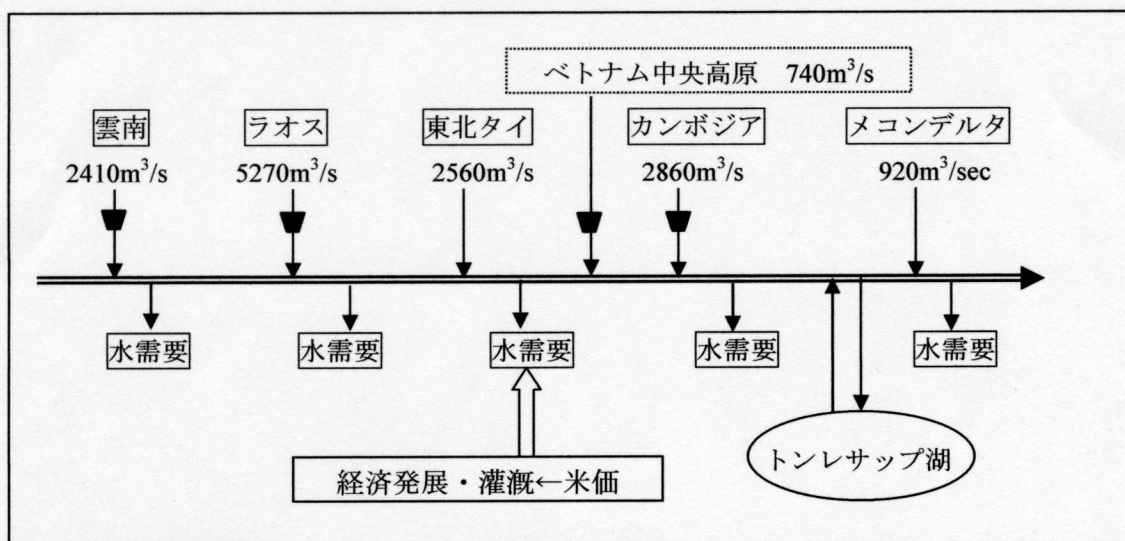
近畿大学・多田 稔
農村工学研究所・丹治 肇
国際農林水産業研究センター・小林 慎太郎

カンボジアのトンレサップ湖における内水面漁業は周辺の貧困層に対して蛋白質摂取と現金収入の機会を提供しており、非常に重要な役割を担っている。しかし、当漁業は、乱獲、水質汚染、湖の水量減少等によって水産資源の減少という危機に直面している。このため、メコン川とトンレサップ湖を連結するトンレサップ川の定置網漁業における過去の漁獲量や湖の最大水位と現在の漁獲量の関係を推定した。その結果、最大水位の1%低下は漁獲量の1.25%低下につながると推定された。

それでは、将来においてどの程度の水位低下を想定することが現実的であろうか。この問題に対処するため、メコン川流域における産業別水需要と水力発電ダム建設によって平準化される流量の季節変動を組み込んだ水需給モデルを構築し、今後の流域の経済発展やダム貯水量に関するシナリオに応じたトンレサップ湖の最大水位を予測した。その結果、雨期においては工業用水や生活用水の需要増加がトンレサップ湖の水位に及ぼす影響は軽微であり、発電ダム建設によって雨期の最大水位が約4%低下し、漁獲量が5%程度減少することが予測された。

ダムの建設は当地域の経済発展に大きく貢献するものであり、電力の輸出による受益国がカンボジアに対して漁業補償を行うことによって、カンボジア養殖業に発展の道が開かれる可能性も考えられる。

メコン川流域の水需給モデル



▼: 発電ダム